

# 船入口帰帆



帰り来る千舟は片帆おろしつゝおくる浪こそ船入のくち 児笑

帰り来る沖に帆掛けも数見へて船入口ぞにぎはひにけり 鶯樂

真帆片帆みな下しつゝ高瀬船船入口にかへる夕ぐれ 陰行

荒川のあらし浪間を押しりて船入口にかへるともふね 梅雄

追風のなみくゝならぬ浪の上を真帆もきほひて船入の口 陰行

この夕辺むかしもかくと思ふまで千舟より来る船入の口 同

帰り来る帆かけは杉の二本をあてゝやよらん船入の口 本也

追手風吹にまかせて船入の口によりくる千ふね百ふね 同

くれかけて真帆に片帆に百ふねのきそひて帰るふな入のくち 同

古の夕辺船入口に棹さして声うちかわし帰る友ふね 一誠

雲をこす夕辺の風にいそかれて帆かけてかへる船入のくち 鶯樂

この夕辺真帆引つれてはへぬべくきそひて帰るふないりのくち 系丸

おくれじと真帆引つれて夕まぐれ船入口にかへる友ふね 同

高瀬船真帆もきほひて追風にいそぎてかへる船入の口 同

高せ船浪のうねくゝ柔切りて船入口にかへる夕ぐれ 花友